

ドローン登場 スマート農業を目指せ



本体はプロペラの回転音しかありませんが、予備バッテリーの充電用のエンジンはずっとフル回転です。

薬剤の散布に新たな味方が加わりました。これまでの小型ヘリコプターに代わって、「ドローン」の登場です。ご存知の通りドローンは、様々な面で注目の器械です。カメラを積んだ撮影用や荷物の運搬などに利用が進んでいます。

ドローンはバッテリー駆動なので、飛行中の音が静かです。それにへりほど強い揚力が必要ないので薬剤の飛散も少ないようです。関係者にお聞きすると「バッテリーが一番のカギ」とのこと。

盆踊り大会に 100 人以上の参加

ふれあい盆踊り大会が8月3日の夕刻行われました。当日はまさに真夏の猛暑日。準備も運営も汗だくでしたが、日頃顔を合わせることもない、遠くに住む人も帰ってきてくれました。

また高齢者福祉施設「ぬくもり山口」の入所者も、たくさん来場いただきました。お元気な方は、踊りに参加をしてくださいました。



「ぬくもり山口」の入所者は車椅子で来場。焼き鳥を食べたり、楽しんで下さいました。

- ご協賛各社 (順不同)
- 山口金属曲板工業株式会社
 - 高山ガス株式会社小郡充塲所
 - 高山造庭園株式会社
 - 大衆電機株式会社
 - 山陽鋼機建設株式会社
 - 株式会社ライフ
 - 株式会社岩多屋山口支店
 - 桃太郎
 - 農事組合法人八方原
 - 桃太郎
 - 有限会社社林建材店
 - 株式会社ネハリ
 - 中国ケミ株式会社山口(営)
 - 株式会社ナカテック
 - 株式会社グリーンクロス
 - 三共テクノ運送株式会社
 - アーオート有限公司
 - 田中酸素株式会社山口(営)
 - 有限会社朝日化学

ラジオの前でイチニisan



体操の後のランニングは八方原の伝統

夏の朝、通りのどこかで聞こえている「ラジオ体操」。自治会によってはやらないとか、期間を身近くしてというように変化してきました。持ち運びのできるラジオのない時代は、ラジオの使えるどこかの家の庭でやっていましたね。放送に頼らなくても、録音でやることは簡単ですが、やっぱり「ラジオ」。

子どもたちは花火にゲームと、それに焼き鳥やフランクフルトなど、夏の思い出の一つになったのではないのでしょうか。

この大会には地区の事業所様から、多額のご寄付を頂きました。紙面を借りまして、厚く御礼申し上げます。

実行委員長 本田 昇

地域内からたくさんの再資源物資



大人と協力してリサイクル作業

8月18日、子ども会のリサイクル活動が行われました。地区のリサイクルは毎月第2日曜ですが、8月は子ども会が、直接自宅まで改修に伺う特別活動です。

8月の暑い時期は飲み物の空き缶も格別多い時期です。この回収のために新聞雑誌の準備をされていたご家庭も少なくないのではないのでしょうか。

児童生徒にとって、リサイクルの実践は、良い経験となるでしょう。それにささやかではなりますが、活動資金となりますからね。

正しく飼ってずっと一緒に

お金を払って、犬や猫と一緒に過ごし、弱々しくなった心を癒すという時代です。私たちにとって、ペットは欠かせないものとなっています。

しかし、ペットが苦手な人や、増えすぎて、近隣に糞尿などの迷惑行為が多発することも避けて通れません。

当自治会内では、犬の散歩のマナーについて、改善しようという啓発文を作成して配布してきました。

自治会には様々な苦情が寄せられますが、このところ猫被害のものが急増しています。「畑に猫の糞尿が絶えないので、困っている。」「家の中に入り



令和元年8月28日付山口新聞掲載分

込んでくるので「油断できない。」などです。上の新聞広告のコピーをご覧ください。日本動物愛護協会が出しているものですが、さまざまに作られた曲にもなっています。飼う猫でも家の外で多数に餌

通学路クリーンアップ



固く根を張った草は、簡単には抜けません

8月18日の早朝、八方原・森下両地区の児童生徒の保護者が通学路の除草作業を行いました。保護者と一緒に子どもたちも活躍しました。

農地隣接道路は、農事組合法人やYKM（八方原の環境を守る会）が、活動対象としていますが、この道路は市道でもあり、管理するのは行政と自治会となるのでしょうか。

草もしつかりと根を張り、少々力ではびくともしないような頑丈なものばかり。機械力に頼らないと、歯が立ちません。

やりをしていると、野良猫と変わりない状況となります。

野良猫には、危険な部分があります。代表的なのは寄生虫「トキソプラズマ」です。これは一般の成人にはあまり影響がありませんが、妊娠中の女性に入ると胎児の異常や死産などの恐れがあります。筆者も飼う猫にこの寄生虫が付いたので、一か八かの強力な薬を獣医に投薬してもらいましたが、猫自身

が死んでしまいました。カエルや蛇などを捕まえる猫は要注意です。

「猫ひっかき症」というのは、猫の爪にある毒素などで、化膿を引き起こすもので、良く知られた病状です。

野良猫にくっついてノミの影響

や被害も侮れません。地上から30cm程度までに集中した虫刺されは、猫ノミの可能性が高いです。筆者はそういう状況で皮膚科に行くと、即座に猫ノミと診断されました。「近所に放し飼いの猫がいませんか?」。医師の指摘は的を得ていました。猫ノミはQ熱という別の病気をもたらすこともあるようです。

可愛いから、餌をやることで楽しみかも知れませんが、生き物である以上どこかで排泄をすることになります。生き物の「生きる」こと全体を世話をする覚悟がないといけないのではないのでしょうか。

副自治会長 原田茂樹